

■大田南畝(蜀山人・四方赤良) 狂歌はじめ天明文壇を主導、〈寛政の改革〉に能吏として対処、その後も広く影響。

おおたなんぼ

・ ・ ・ ・ ・ 1749= 江戸牛込で幕府の御徒の唯一の男子として生れた。

徳川吉宗没・1751= 2歳 :

宝暦事件・ ・ 1758= 9歳 :

大岡忠光没・1760=11歳 : 二人いた姉はすでに嫁いでしまった。

・ ・ ・ ・ ・ 1763=14歳 : 内山賀邸に入門、平秩東作を知る。

蘭銭初輸入・1765=16歳 : 御徒となる。

忠臣蔵大当り1766=17歳 : 「明詩擢材」を刊行。松崎観海に入門。

明和事件・ ・ 1767=18歳 : \*戯れに作った狂詩が平賀源内の推賞するところとなって「寝惚先生文集」を出版、知的武士の軽快な諧謔が歓迎されて一躍文名をあげ、江戸市民文芸の水先案内人の役割が始まる。

・ ・ ・ ・ ・ 1769=20歳 : 「売船土平伝」刊。\_同門の友唐衣橋洲に誘われ、四方赤良と号して狂歌を始めると、機知と笑いを求める風潮に合っただいに普及。

御蔭参流行・1771=22歳 : 結婚。「南畝集」始まる(〜1822)。

田沼意次老中1772=23歳 : 明和の大火を狂詩に詠む。長女が誕生するが、

大原騒動・ ・ 1773=24歳 : 夭折。將軍上覧の水泳に参加、時服を賜る。

黄表紙始・ ・ 1775=26歳 : 「評判茶臼芸」刊。「一話一言」始まる(〜1822)。「甲斐新話」を書いてから、洒落本作者として活躍。疥癬のため、病臥、赤貧に陥り、友人たちから贖金を受ける。

雨月物語刊・1776=27歳 : 「世説新語茶」刊か。疥癬が直り、將軍の日光参りの御徒を務める。

・ ・ ・ ・ ・ 1777=28歳 : 「阿姑麻伝」刊。

♫船蝦夷来1778=29歳 : 「春笑一刻」刊。「うぐひす笛」刊か。

源内獄中死・1779=30歳 : 「深川新話」「粋町甲蘭」「鯛の味噌津」刊。

・ ・ ・ ・ ・ 1780=31歳 : 長男が誕生。\_この頃には、幅広い文学活動によって、文芸界の中心的存在になっていた。

・ ・ ・ ・ ・ 1781=32歳 : 「菊寿草」,

天明大飢饉始1782=33歳 : 「岡目八目」で新興の黄表紙の作品批評を試み、さらに「此奴和日本」など実作も数種を数えるが、この面では成功を収めなかった。「江戸の花海老」刊。

蘭学階梯・ ・ 1783=34歳 : 「めめた百首夷歌」「通詩選笑知」「源平惣勘定」「寿塩商婚札」刊。一方狂歌は、\*赤良編「万載狂歌集」と橋洲編「狂歌若葉集」が競争的に出版されたのが刺激となって熱狂的な流行が始まる。そして機知と滑稽を特色とする赤良が、温和で地味な橋洲を圧倒し、狂歌においても赤良の四方連が主流となり、あたかも江戸文芸全般の盟主のごとき観を呈する。

意知刺殺事件1784=35歳 : 「檀那山人芸舎集」「通詩選」「頭てん天口有」刊。

蝦夷初調査・1785=36歳 : 「徳和歌後万載集」「俳優風」刊。

田沼意次失脚1786=37歳 :

寛政改革始・1787=38歳 : 「松楼私語」成る。\_田沼政権が崩壊して、松平定信の文武奨励政治が始まると、文芸界と絶縁。

・ ・ ・ ・ ・ 1788=39歳 : 「俗耳鼓吹」成る。

\_時世風刺の落首の作者と疑われたのを恥じて、文筆を完全に捨てる。

松平定信引退1793=44歳 :

オランダ正月・1794=45歳 : \*人材登用試験に首席で合格し、幕吏として出発。

ブートン来航・1796=47歳 : \_支配勘定となり、勤務日誌を書き始める。

古事記伝・ ・ 1798=49歳 : 妻が死去。

蝦夷地直轄始1799=50歳 : 幕府発行の「孝義録」編纂に従事、

伊能測量始・1800=51歳 : \_御勘定所諸帳面取調御用を命じられ、勘定所文書の整理などに当たって、賞された後、

宣長没・ ・ ・ 1801=52歳 : 大坂銅座話となり、蜀山(銅の異名)と署名するようになる。

一九膝栗毛始1802=53歳 : 大田南畝原撰「浮世絵類考」山東京伝増訂本成る。木村兼葭堂を訪問し、「遊遊従之」を作る。

アメリ船来航始1803=54歳 :

\_かつての名声を知る人たちから狂歌を望まれることが多く、やむなく蜀山(銅の異名)の仮号で詠み、寛政改革の緊張も緩和されたので、以後、狂歌を本格的に再開。

いざノ報復・1806=57歳 : 「ひともと草」成る。

フェートン号事件1808=59歳 : 狂歌集「猫の賦」の一節で、猫の鼠取りの威力を称えている。

浮世風呂・ ・ 1809=60歳 : 「金層木」「向岡閑話」成る。

\_並行して、膨大な量の紀行、評論、その他の文を著し、文芸界のみならず歌舞伎、浮世絵等江戸文化全体に大きな影響を与え、調和的性格で諸侯から町人に至る各階層から、代表的江戸人として親しまれる。

高田屋拿捕・1812=63歳 : 「壬申掌記」成る。

\_狂歌界と関係なく、また門人もないが、世人の人気は蜀山人の狂歌に集まり、おのずから作も多くなり、

杉田玄白没・1817=68歳 : 「千紅万紫」「南畝莠言」刊。

水野忠成老中1818=69歳 : 「北州千歳寿」(清元)初演。「万紫千紅」

群書類従完結1819=70歳 : 「四方の留柏」などの狂歌狂文集、

・ ・ ・ ・ ・ 1820=71歳 : この頃、「一簾春雨」成る。

伊能図完成・1821=72歳 : 「奴師劣之」成る。

英船浦賀来航1822=73歳 : 「南畝集」「一話一言」終る。

自筆の「蜀山百首」として出版された晩年はむしろ江戸の代表的な知識人として高く評価され、

シボノ来日・1823=74歳 : \*古希を過ぎるまで勘定所役人として勤務、学殖を積み多方面の業績をのこして、没した。